



名園でたどる  
時代の旅

名園でたどる  
時代の旅

港区には名園と呼ばれる庭園があります。これらの来歴には大きく2つの流れがあります。1つは江戸時代の大名庭園の系譜を引くものです。江戸時代、現在の港区域には大名屋敷がとて多くありました。江戸城に近い場所には上屋敷（大名の当主が住み、かつ藩の江戸における出張所の役割を果たした屋敷）が立ち並び、広大な敷地に庭園を築造する大名もいました。現在も残る旧芝離宮恩賜庭園（→12ページ）はそうした大名庭園の系譜を引く庭園です。ここは江戸時代の前期に小田原藩の藩主大久保家の上屋敷がおかれ、大久保氏はここに「楽壽園」という庭園を造りました。当時のこの近辺は埋め立てられた臨海地域で、池に海水を引き込み、潮の満ち引きで景観を変えるなど、趣向を凝らした庭園でした。また、現在の檜町公園（→13ページ）には江戸時代、長州藩毛利家の下屋敷があり、ここには「清水園」という有名な大名庭園がありました。現在、庭園そのものは残っていませんが、雰囲気を楽しむことができます。

もう1つの流れは近代に造られた庭園です。港区には旧芝離宮、旧朝香宮邸（→14ページ、現東京都庭園美術館）、旧有栖川宮邸（→14ページ、現有栖川宮記念公園）、そして赤坂離宮と、離宮や宮家の本邸が少なくありません。

このほか、近代の代表的な財閥である岩崎家（三菱財閥）の本邸に造られた庭園があります（→13ページ）。この庭園は当時の第一級の造園家である「植治」こと7代目小川治兵衛によって造られた代表的な近代日本庭園です。現在、国際文化会館の庭となっていますが、当時の姿とほぼ変わりありません。また、芝公園内に造られた溪流（→12ページ）は近代公園行政の先駆者である長岡安平の設計によるものです。都会の中に浮かぶ静寂の空間でゆっくり過ごしてみるのもよいかもかもしれません。



迎賓館赤坂離宮

休館日：毎週水曜日又は接遇等による非公開日。  
参観コースによっては、事前予約が必要となります。  
詳しくはHP (<https://www.geihinkan.go.jp/akasaka/>)  
かテレフォンサービス（03-5728-7788）にてご確認ください。

# 名園でたどる 時代の旅

名園でたどる  
時代の旅



千代田区

S=1:24,000



新宿区

渋谷区

- 路線図
- 都営浅草線
  - 都営三田線
  - 都営大江戸線

10

瓜屋駅



## 旧芝離宮恩賜庭園

所 海岸 1-4

コース ①

本庭園は相模小田原藩主大久保忠朝が屋敷内に造った大名庭園を起源とします。このあたりは明暦年間（1655～58）に埋め立てられ、延宝6年（1678）に忠朝が拝領しました。忠朝は、貞享3年（1686）にかいゆうしきていえんを造り「楽壽園」と名付けました。海沿いの立地をいかし、池に海水を引き入れて潮の満ち引きで景観が変わるようにしました。また、名石を配し、中国の西湖のジオラマを造るなど様々な趣向を凝らしました。

その後、堀田家、清水家、紀伊徳川家をを経て、明治4年（1871）にありすがわのみやたるひと親王邸となり、同8年（1875）に宮内省が買上げ、翌9年（1876）に離宮となります。大正13年（1924）に皇太子裕仁親王（後の昭和天皇）の結婚を記念して東京市に下賜され、4月20日に旧芝離宮恩賜庭園として開園しました。

園図

開園時間：9:00～17:00（入園は16:30まで）  
休園日：12月29日～1月1日  
料金：一般150円、65歳以上70円  
問い合わせ：03-3434-4029



## 芝公園紅葉瀑布・溪流

所 芝公園 4-3

都立芝公園内もみじ谷

コース ②

ながおかやすへい  
長岡安平（1842～1925）が明治38年（1905）に設計・築造した庭園です。安平は明治から大正時代にかけての造園家であり、東京府・市の職員として近代日本の公園の発展に力を尽くした人物です。天保13年（1842）肥前大村藩士の子に生まれた安平は、明治3年（1870）に郷土の先輩である楠本正隆に仕がって上京し、新潟に赴任した後、同8年（1875）に東京府知事に就任した楠本から府の土木掛を命じられ、東京府立公園や街路並木などを扱いはじめました。その後、公園管理が移管された東京市の嘱託職員となり公園デザインや公園行政に携わり続けました。浅草公園内の溪流の設計、飛鳥山公園・向島百花園の改修など、安平が手がけた公園・庭園は40以上を数えます。都立芝公園内の溪流は昭和59年（1984）に造園当初に限りなく近い状態に再現されました。



## 旧毛利家庭園「清水園」跡 (檜町公園)

所 赤坂9-7

コース③

ここには江戸時代、長州藩毛利家の下屋敷（別称「檜屋敷」）がありました。通常、大名の当主は上屋敷に住み、下屋敷は物資の保管や別邸として使用されますが、この屋敷には一時期藩主と世継ぎが住むなど長州藩の中心的な藩邸として利用されました。邸内には名園として広く知られる「清水園」という庭園がありました。邸内に祀られる稲荷社に町人が参詣したり、他藩の藩士が庭を見物したりと、限定的ではありますが、外部にも解放していたようです。

明治期に入ると第1師団歩兵第1連隊の駐屯地となり、戦後、敷地の大部分に防衛庁が置かれました。残りの部分を公園として整備したのが檜町公園です。平成12年（2000）に防衛庁（現防衛省）が市ヶ谷に移転し、跡地が東京ミッドタウンとして開発された折、当公園も再整備され景観が大きく変わりました。



## 旧岩崎邸庭園 (国際文化会館)

所 六本木5-11-16

コース④

昭和4年（1929）、三菱財閥の4代目当主岩崎小彌太（1879～1945）が岩崎家鳥居坂本邸に造った庭園です。京都の造園家「植治」こと7代目小川治兵衛（1860～1933）の作によるものです。7代目小川治兵衛は近代日本庭園の先駆者とされる造園家で、平安神宮、円山公園、無鄰庵（山縣有朋別邸）、清風荘（西園寺公望別邸）、古河庭園などを手がけ、また住友家や三井家・岩崎家などの財閥の求めに応じて数々の名園を造りました。このほか、京都御苑、修学院離宮、桂離宮、二条城、南禅寺、妙心寺、青蓮院、仁和寺などの修景も手がけています。本庭園は、崖に面した南側と鳥居坂に面した東側に草木を植え、その内側に池を設けた地泉回遊式の日本庭園です。作庭当時の姿がおおむね残されています。

図⑩



きゅうありすがわのみやてい  
**旧有栖川宮邸**  
**(有栖川宮記念公園)**  
 所 南麻布5-7-29 コース⑤

もともとここには江戸時代、陸奥盛岡藩南部家の下屋敷がありました。明治29年(1896)に有栖川宮威仁親王の邸宅となり、威仁親王の母森則子の住居などが設けられました。敷地の広さは20,000坪をこえ、敷地内は起伏に富み、東側の高台から西南側に向けて大きく傾斜しています。大正2年(1913)に威仁親王が死去し、有栖川宮が絶えた後は、同宮の祭祀を引き継いだ高松宮に継承されました。昭和9年(1934)1月15日に高松宮から東京市に下賜され、有栖川宮記念公園として一般開放されました。園内にはかつて三宅坂の旧参謀本部庁舎正門前にあった有栖川宮熾仁親王銅像(明治36年建立)などがあり、また都立図書館が併設されています。



きゅうあさかのみやてい  
**旧朝香宮邸**  
**(東京都庭園美術館)**  
 所 白金台5-2-1-9 コース⑥

昭和8年(1933)、朝香宮鳩彦王(1887~1981)の本邸として造営され、日本の代表的なアール・デコ建築とされます。朝香宮家は明治39年(1906)に久通宮朝彦親王の8番目の王子であった鳩彦王によって創設された宮家です。朝香宮はフランスに滞在中、フランス文化、とりわけ当時流行していたアール・デコ様式に強い関心と理解を示しました。これにより本邸にはアール・デコ様式を望み、設計の一部をフランスのデザイナー、アンリ・ラパンに依頼し、内部装飾もフランスをはじめとする外国から輸入したものを多用しました。

戦後、外務大臣・首相公邸、国の迎賓館などとして使われましたが、昭和58年(1983)に美術館として開館しました。[国]

